

貸借対照表

(2020年2月29日現在)

(単位:千円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
流 動 資 産	648,405	流 動 負 債	739,818
現金及び預金	10,268	買掛金	158,061
売掛金	463,835	短期借入金	349,970
商 品	2,053	未払金	154,282
製 品	39,978	未払法人税等	15,224
原料及び材料	92,134	未払費用	52,620
貯 蔵 品	19,266	預 り 金	1,557
前払費用	9,958	賞与引当金	8,100
未収入金	5,816	固 定 負 債	185,005
その他の流動資産	6,266	退職給付引当金	185,005
貸倒引当金△	1,174	負 債 合 計	924,823
固 定 資 産	447,286		
有形固定資産	387,278		
建 物	126,022		
構 築 物	2,500		
機 械 及 び 装 置	139,354		
器 具 及 び 備 品	4,804		
土 地	114,596		
無形固定資産	10,263		
ソフトウエア	7,656		
施設利用権	2,607		
投資その他の資産	49,744		
出 資 金	1,000		
長期前払費用	3		
差入敷金保証金	48,720		
その他の投資等	20		
		純 資 産 の 部	
		株 主 資 本	170,868
		資 本 金	96,000
		資 本 剰 余 金	90,000
		その他資本剰余金	90,000
		利 益 剰 余 金△	15,131
		利 益 準 備 金	24,000
		その他利益剰余金△	39,131
		別 途 積 立 金	761,000
		繰越利益剰余金△	800,131
		純 資 産 合 計	170,868
資 産 合 計	1,095,692	負 債 及 び 純 資 産 合 計	1,095,692

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

個 別 注 記 表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 資産の評価基準および評価方法

たな卸資産の評価基準および評価方法

評価基準	原 価	法 (収益性の低下による簿価切下げの方法)
評価方法	商 品	最 終 仕 入 原 価 法
	製 品	総 平 均 法 (精米センター)
	”	先 入 先 出 法 (常陸太田工場)
	原 料 及 び 材 料	総 平 均 法 (精米センター)
	貯 蔵 品	最 終 仕 入 原 価 法 (常陸太田工場)
	”	総 平 均 法 (精米センター)
		最 終 仕 入 原 価 法 (常陸太田工場)

2. 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産 定率法を採用しております。

(リース資産を除く) ただし、1998年4月1日以降取得した建物(建物付属設備を除く)、および2016年4月1日以降に取得した建物付属設備並びに構築物については定額法によっております。
なお、主な耐用年数は建物および構築物が15～25年であります。

無形固定資産 定額法を採用しております。

(リース資産を除く) なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

リース資産 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

自己所有する固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しております。

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

3. 引当金の計上基準

貸倒引当金 債権の貸倒に備えて、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金 従業員等に対して支給する賞与に充てるため、支給見込額基準により設定しております。

退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込み額に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額を計上しております。
数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(9年)による定額法により翌事業年度から費用処理することとしております。

4. その他計算書類作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理 消費税等の会計処理は税抜方式によっております。

(当期純損益金額に関する注記)

当期純利益 79,703千円